

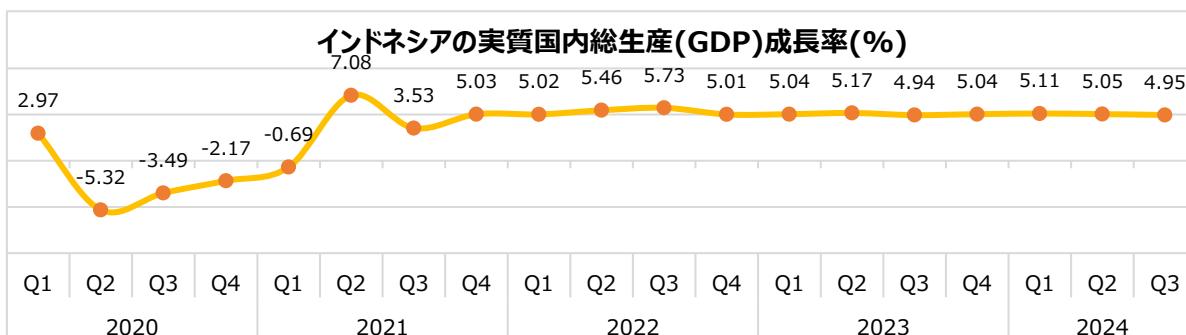
＜インドネシア・リサーチ・レポート＞

情報提供用資料

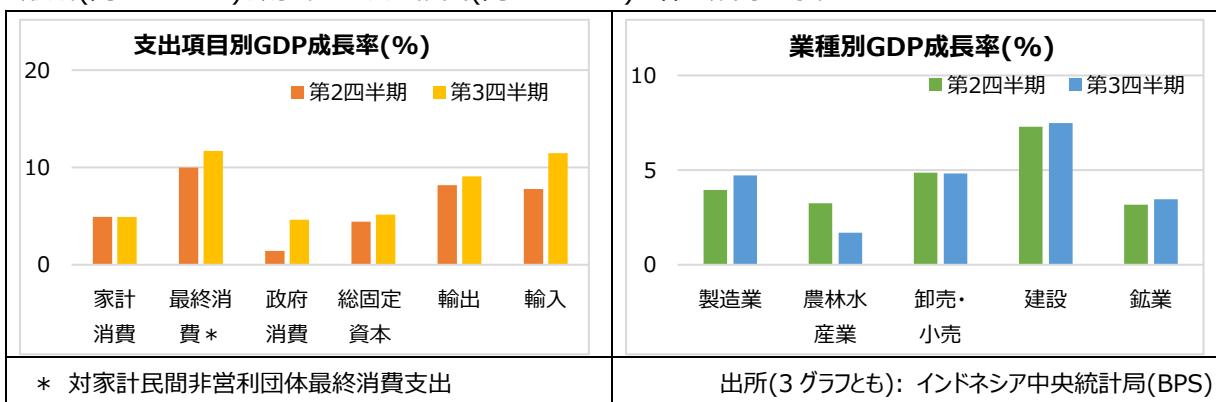
2024年11月13日

第3四半期のインドネシアの経済成長は緩やかに減速

インドネシアの実質国内総生産(GDP)成長率は2024年第3四半期に前年同期比+4.95%と、3四半期にわたって持続していた5%強の成長率から若干鈍化した。1~9月の成長率は同+5.03%であった。



第3四半期の支出(需要)項目別でGDPの半分強を占める家計消費支出の成長率は、主に衣料品と家財の減速により前年同期比+4.91%と、第2四半期における成長率(同+4.93%)から僅かに減速した。連休や祭りなどの消費イベントが第2四半期に多かった反動などが要因とされている。一方で、総固定資本形成(同+5.15%)、財・サービスの輸出(同+9.09%)の伸びが高めであった。



業種別にみると、GDPの約2割を占める製造業は前年同期比+4.72%と成長した。成長率が高かったのは、建設(同+7.48%)、運輸・倉庫(同+8.64%)、ホテル・外食(同+8.33%)などであった。農林水産業(同+1.69%)などの伸びが穏やかであったが、全体的に均整のとれた底堅い成長を続けている。

インドネシアの将来については、豊富な資源やエネルギー輸出国であることに起因する地政学面での安定性に加えて、2045年完了を目指している新首都への移転に伴う建設活動や、ダウントリーム(付加価値の高い川下産業)の育成が今後の成長をけん引していくことが期待される。

以上

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。